

# 多摩川源流大学

平成18年度より東京農業大学が文部科学省の現代GP事業(現代的教育ニーズ取組支援プログラム)に採択されたプロジェクトです。



■住民から直接指導を受けることができる住民講師の制度は住民にも学生にも好評

源流大学では「源流域」、「本物」をキーワードに、本学の学生が多摩川源流域である山梨県小菅村において農林業を中心とした様々な体験実習を行い、それらの経験をとおして「本物」を知り、地域再生に貢献できる人材を育成することを目的としています。

近年、都市部の生活はモノや情報にあふれ、ともすれば利便性の高い生活を手に入れたかに思えます。しかし、「食の安全」に代表されるように様々な弊害も生まれています。これらの問題を生む一つの要因は生活者側にもあり、それはモノがどうやって生産されているのか、どのように流通してくるのかを知らないということなのです。つまり、私達は「本物」を見たことや体験したことがないという問題を抱えています。他方、「源流域」に注目してみると、そこには農林業と深く関わりながらの生活が残っており、特に「本物」を生産し維持する場として重要な機能を有しています。これは農学を中心に据えた教育を行う本学にとって非常に有効

な教育現場であり、学内で行われる座学ならびに実習をさらに補完することができる場であると考えられます。

これらのことから源流大学では学生が「源流域」において様々な体験実習を行うことで地域について学び、生活者の知恵を学び、それらにより自らの知識を「本物」にすることを目的としています。

より地域に密着した教育を行うため、源流大学では東京農業大学世田谷キャンパスと小菅村の白沢地区にあった廃校に事務室を構え、学生のサポートを行っています。これにより、地域の住民と学生のコミュニケーションがとりやすくなっています。また、本学の講師の他に、関係団体から講師を招いたり、地域住民に住民講師として来ていただいたりと、幅広い知見を深められるようにしています。特に住民講師は学生にも好評で、地域の人と実際に触れ合うことで地域の問題や魅力を学ぶことが出来ます。